

アーティストトーク

“教科書に載ってない焼き物史 6” 素材からみた道具・BANKOの企画展

内田鋼一 × 安藤雅信

日時 | 5.15 sat 15:00-16:30

場所 | 百草にて

参加費 | 無料

初日(5.15)の予約制につきまして

[ご予約開始日: 5.8 sat AM10:00より]

混雑が予想されますので初日のみ14時までのご来廊はご予約制となります。

予約枠: 11:00- / 12:00- / 13:00-

- ・ご予約が多い場合には先着順で承ります。
- ・受付はご予約上限人数に達した時点で締め切りとさせていただきます。
- ・1通につき2名様までご応募が可能です。
- ・常設展、カフェはご予約なしでご利用頂けます。
- ・14:00-18:00、二日目以降は、ご予約なしでご覧いただけます
(状況により変更の可能性もございます。その場合は速やかにSNSでお知らせいたします)

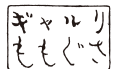
応募方法の詳細はホームページ(www.momogusa.jp)をご覧ください。

schedule

5.31 mon-6.4 fri 展示替えのため休廊
6.5 sat- 6.13 sun one room exhibition
“atelier scrumpcions” 休廊日未定
6.14 mon-6.16 wed 展示替えのため休廊
6.17 thu- 7.5 mon 常設展示
7.6 tue- 7.9 fri 展示替えのため休廊
7.10 sat- 7.25 sun トラネコボンボン展 休廊日未定

momogusa cafe

5.15 sat, 5.16 sunはBANKO archive design museumカフェより
2日間限定の出張カフェとなります。coffee kajitaさんのBANKOオ
リジナルブレンドコーヒーや、自家製フルーツソーダ、チーズケーキ
や焼き菓子などをご用意いたします。5.17-5.30までのももぐさカフェ
のメニューは常設メニューの軽食と同じものになります。
11:00-18:00 (L.O 17:30) メニュー・席の予約不可



〒507-0013 岐阜県多治見市東栄町2-8-16
tel. & fax. 0572 21 3368
<https://www.momogusa.jp>

多治見ICより車で10分 / JR多治見駅北口よりタクシー 12分
(JR多治見駅より東鉄バス13分「高田口」下車1km)



内田鋼一展

2021.5.15 sat-5.30 sun

11:00-18:00 5.18 tue, 5.26 wedは休廊となります

内田鋼一 ————— 在廊日: 5.15 sat

出品内容: 抹茶茶碗/瓶子など

混雑が予想されますので初日(5.15)14時まで入場制限を行います。
詳細は裏面をご覧ください。

galerie
momogusa

百草

内田鋼一

KOICHI UCHIDA

1969 愛知県名古屋生まれ
1990 愛知県立瀬戸窯業高等学校陶芸専攻科修了
1992 三重県四日市市に工房を構え、制作拠点を置き、
個展を中心に活動を始める
2012 滋賀県朽木に穴窯を築窯
2015 三重県四日市市に萬古焼をテーマとする私設美術館
「BANKO ARCHIVE DESIGN MUSEUM」を開館
現在、三重県四日市市にて制作

主な個展・企画展

1999 「東海の陶芸」(名古屋国際会議場、愛知)
2000 「うつわをみる 暮らしに息づく工芸」
(東京国立近代美術館工芸館)
2003 「UCHIDA KOICHI」(パラミタミュージアム、三重)
2004 「静謐なかたち UCHIDA KOICHI WORKS 2003-2004」
(リバーリトリート雅楽俱 4TH ミュージアム、富山)
2006 「陶芸の現在、そして未来へ CARAMIC NOW+」
(兵庫陶芸美術館)
2008 「新進陶芸家による『東海現代陶芸の今』(愛知県陶磁美術館)
「ART IN MINO ' 08 土から生える」
(市之倉窯場跡、大川採土場他、岐阜)
2010 「第3回智美術館大賞展 現代の茶—造形の自由」
(菊池寛実記念智美術館、東京)
「茶事をめぐって—現代工芸の視点」
(東京国立近代美術館工芸館)

2011 「MADE IN JAPAN 内田鋼一 COLLECTION」
(MUSEUM as it is、千葉)
「白磁・青磁の美—伝統と創造」特別展示
「内田鋼一 茶の空間」(樂翠亭美術館、富山)
「井上一・内田鋼一」(箱根菜の花展示室、神奈川)
「作る力 CREATORS FOR EVERY DAY LIFE」
(金沢21世紀美術館、石川)
2012 「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2012」(新潟)
「交差する視点とかたち」
(札幌芸術の森美術館、北海道立釧路芸術館)
2013 「内田鋼一展—うつわからの風景」
(パラミタミュージアム、三重)
2015 「内田鋼一展—手と眼」(樂翠亭美術館、富山)
2017 「沼波弄山生誕三百年 BANKO 300TH」
総合プロデューサーに就任
2018 沼波弄山翁 生誕三百年 企画展
「萬古焼の粋—陶祖 沼波弄山から現在、未来に繋がる萬古焼」
(ばんこの里会館、三重)を企画、監修
2019 「内田鋼一展—時代をデザインする」(兵庫陶芸美術館)
「平成30年度日本陶磁協会賞」受賞
2020 三重県の菟野町にある「湯の山 素粋居」の設計デザイン、
アートのワークの監修及び総合プロデューサーに就任
2021 「近代工芸と茶の湯のうつわ—四季のしつらい—」
(国立工芸館、金沢)
国内外で、個展、グループ展、企画プロデュース等、多数



向かう先

安藤雅信

百草での内田鋼一展を大体3年に一度のペースで催しているが、前々回の2015年の展示の時、彼は陶芸家だった。前回の2018年にはバンコアーカイブデザインミュージアムを創設して館長兼企画者の名が加わった。そして、2021年になるとプロデューサー業にも足を踏み入れていて、本格的な商業施設の企画も手がけ始めている。どれかがお留守になるのかと思えば、どれもしっかりこなし、手を抜いていない。欲張って仕事を広げているのではなく、これまで関心を持ってきたものが繋がり、活かす場が出現しているような感じだ。それは普通の人が見過ぎしてしまうような物への愛情が、どの仕事にも通底していることから分かる。どれが本業か分からないけど、今展ではもちろん、作り手としての内田鋼一を紹介する。

バンコミュージアムの展覧会を観ていると、民藝のような重さはなく、軽やかで野暮ったさのない道具が多く選ばれている。その傾向から見れば、作り手としても生活工芸的な存在になると思うのだが、へそ曲がりの彼は「生活工芸の作家じゃないんだけどね」と答える。かといって技巧を凝らす工芸の方に向いているわけでもない。縄文時代から用途はともかく、焼物はずっと道具であり、その範疇であるさりげなさに惹かれているのだろう。「貧道の嗜まざる所三あり。曰く詩人の詩。書家の書。庖人の饒これなり」という良寛が嫌ったという三つは、権威やおごり高ぶった専門家の仕事に向けた言葉であろう。上から見下ろすようなことをしない内田君には文人的な斜に構えた血が流れている。だから一カ所にとどまらず、今日もの赴くままに動いている。「どこに向かっているの」と彼に尋ねても、「俺？どこにも行ってないよ。前からここだよ」と言うだろうな。

